

第1回 富士見市都市計画基本方針策定委員会 会議録							
会議日時		令和元年9月4日(水)		開会 午前10時00分 閉会 正午			
会議場所		市長公室	出席者数	委員定数10名中	出席者10名		
出席者	委員	1号	委員	塩野 弓子		委員	山科 和仁
		2号	委員長	深堀 清隆		委員	中村 章
			副委員長	木内 芳弘		委員	新井 幸雄
		3号	委員	金子 光治		委員	小栗 知実
			委員	渋谷 利江		委員	杉井 学治
事務局職員及び説明担当員		【事務局職員（まちづくり推進部）】 斉藤部長、高橋市街地整備担当課長 【事務局職員（まちづくり推進課）】 栗林課長、會田副課長、室本主任 【委託業者】 玉野総合コンサルタント（株） 渡辺係長、岩本担当課長					
欠席委員		なし					
会 議 事 項							
1. 開会挨拶		斉藤 まちづくり推進部長					
2. 市長あいさつ							
3. 委員長及び副委員長の選出		富士見市都市計画基本方針策定委員会条例第5条の規定により、委員の互選により選出とあるため、新井委員が深堀委員と、木内委員を推薦。 木内委員から、深堀委員を委員長に推薦。異議がなかったことから、委員長は深堀委員、副委員長を木内委員とすることが決定。					
4. 委員長挨拶							
5. 諮問		市長から深堀委員長に対し、富士見市都市計画基本方針策定委員会条例第2条の規定により、富士見市都市計画基本方針の策定について、諮問書を手交。					

(市長退席)

会議事項

6. 委員会の運営等について

事務局から以下の2点について説明を行い、いずれも公開することを決定した。

(1) 委員会の会議における傍聴について

(2) 会議録の公開について

7. 資料説明

事務局から、配付資料のうち「富士見市都市計画マスタープラン策定について」と、「富士見市の現状について」を説明。

質疑応答

(1) 富士見市都市計画マスタープラン策定について

委員：都市計画マスタープランに関連する分野別計画として、環境、防災、空き家対策が記載されているが、空き家対策は大きな問題なのか。

委員長：都市のスポンジ化対策などの観点からも、富士見市の空き家・空き地等の問題について事務局側から情報提供は可能か。

事務局：市では空き家対策計画を既に策定しており、空き家をランク付けしている。いつ倒壊するかわからないような建物は1～2件程度である。

委員長：総合計画の検討を同時期に進めているが、都市計画マスタープランの検討に反映が必要と思うが、いつ頃情報提供がされるか。

事務局：総合計画で検討する20年後の将来像は12月を目途に固めていきたい、と聞いている。このため11月に開催予定の総合計画の市民ワークショップで、ある程度庁内で検討した結果を提示すると聞いている。

また、土地利用の計画については、総合計画の方針を基に都市計画マスタープラン側で検討を進めることになるため、策定委員の皆さまにもご審議いただきたいと考えている。

委員長：総合計画で検討する20年後の将来像を基に、将来都市像を検討すると思うが将来都市像は箇条書きで整理するものなのか。

事務局：将来都市像は、富士見市の20年後のキーワードやイメージを整理する予定で

ある。

会 議 事 項

委員長：総合計画の情報を受けて検討する機会は、将来都市像の検討以降もあるのか。

事務局：各会議の冒頭に内容が確定したものであれば情報提供したいと考える。

副委員長：スケジュール表に具体的に記されていないが、本委員会で協議した事項について、都市計画マスタープランに反映されるということによろしいか。

事務局：そのとおり。いただいた意見は都市計画マスタープランへの反映を行う。

委員長：委員会の議論は、総合計画の議論にも反映されるということによろしいか。

事務局：総合計画の一部に都市計画マスタープランの内容が盛り込まれることから、そう言うことができる。

委員長：市民ワークショップに策定委員会の議論内容を提示すると思うが、市民ワークショップでは、全体構想について議論するのか。

事務局：市民ワークショップでは、策定委員会での検討状況の報告を行うが、議論は地域別構想に係る内容としたいと考えている。

委員：市民ワークショップを7地域に分けた理由と、前回策定時のワークショップの参加者数を教えてほしい。

事務局：地域については、前回の都市計画マスタープランで生活圏を見て設定しているため、今回も継承したいと考えている。なお、参加者数は、配布した都市計画マスタープランの180ページ以降に開催状況が記載されている。なお、今回は、各地域で14名ずつ参加いただけるよう依頼している。

(2) 富士見市の現状について

委員長：先ほど話をした空き家について、他に情報があれば提供してほしい。

事務局：空き家率の高い区域、低い区域を、空家等対策計画に図示している。

郊外部で昔開発された団地の周辺などで比較的割合が高くなっている。

そのほかに、鶴瀬駅周辺の割合もやや高い。

委員：市の広報誌で空き家の有効活用について記事が出るなど、本市においても空き家問題はあるのだという感覚を持った。

事務局：富士見市に転入してくるのは、若い世代が多いが、和光市方面から転入する人が多い。一方、子どもが小学生くらいになると、住まいの関係や交通の

会 議 事 項

利便性などを理由に、ふじみ野や川越など、北の方に引っ越す傾向がみられる。

また、富士見市だけの傾向ではないが、世帯人員が少なくなっており、これが空き家が増加する要因になっているのではないかと考える。

古くに開発された住宅地についても高齢化率が高い傾向にあると思われる。

委員長：若い人と高齢者の動き方、高齢化率の高さが都市の問題の一つにあるのか。

また、若い人がふじみ野駅周辺に利便性を求めて増えるというのは、交通利便性が高いことが理由か。

事務局：その通りである。

委員長：駅と駅までアクセスできる宅地の便利さが、若い人を呼べるというのはデータから明確に見えてくるかもしれない。

副委員長：乱開発で行き止まり道路があったり、狭かったりすると、若い人が住まないとか、相続の時に永住してくれない。

空き家についても、解体費用が高く、相続放棄する傾向が全国的にみられることから、市が代執行したとしても、相続放棄により市の負担ばかりが増えるなど、いろいろな課題があるので空き家対策は難しい。

都市計画マスタープランに係るかは別として、高齢化は今後も進んでいくので、地域別構想のなかで、いろいろと情報交換ができると良い。

委員長：道路の話が話題になったが、道路は、市民満足度調査のなかで重要度が非常に高い反面、一番満足度が低いものとなっている。これについて各委員の意見は如何か。

委員：例えばバイパスの先が何年くらいで開通するのかなどといった情報もあったほうが良い。

委員：都市計画マスタープランの策定の中でよく検討をしないと、地域間格差がたくさん出てしまうことが懸念される。市街化区域では、そこそこ人口がいて交通網も発達しているが、市街化調整区域では、人口が減少したり、耕作放棄地がどんどん増えている。

一方で、かなり以前の話となるが、南畑小学校区で都市計画法34条11号に基

会 議 事 項

づく開発が進み、かつては小学1年生が25人くらいしか入学してこなくなっていたが、現在、今現在0歳から6歳の人口が300人を超えてきた。

今回もワークショップなどで地域の声を聞いてきて、ここで反映させてほしい。

委員長：駅に近い市街地のことだけでなく、市街化調整区域等にも目を配り、全体の公平性とバランスをカバーするために、地域のワークショップなども重視したいという意見である。

委員長：交通利便性に関して、周辺自治体と比べて富士見市周辺の公共交通、バス交通の課題はあるか。

委員：全体的な話になるが、バス会社は要員不足が深刻で、今走っている路線バスを減便しなければいけないくらいの現状になっている。自動運転技術の進歩もあるが、多くのお客様を乗せて運転手無しで走るようになるには、かなり実現までに時間がかかると思われる。

本地域に関してみると、交通網的には少し少ないと感じているが、ららぽーとに関しては例外で、通常、開業後2～3年目で利用者が減るところが、開業後4年間ずっと右肩上がりですべてバス利用者が増えている。おそらく、鶴瀬からのお客様がこれからも乗ると思われる。

ふじみ野に関しては、まち自体が新しいので若い方も多く、乗られる方も多いのだが、水谷については道路の道幅が狭く、バス停の設置位置や車両の走行などの課題がある。

委員長：インフラの状況と併せて考えていかないと改善は難しい。

委員長：防災面について意見をいただきたいが、いかがか。

委員：市内に該当箇所があるかはわからないが、仕事の関係上木造の戸建ての密集地域の対策に取り組んでいる。空き地や空き家が発生すると、一旦土地を取得し、土地区画整理事業によって街路を整備するなど取組を行っている。

委員長：防災の観点は幅広く、水害問題などについても検討する必要がある。

委員：以前に消防団の団長をしていたが、重点地域で関沢など数カ所は問題になっていた。消防車両が大型化しており、車両が入っていけない地区もある。

会 議 事 項

また、水害についても、市役所や消防署が浸水想定区域になっているが、荒川がはん濫した際の対応についてどうなっているかを聞きたい。

事務局：ハザードマップでは、庁舎周辺も最高10mの浸水が想定されている。このため災害対策本部の設置順位を決めている。

以前に比べると河川改修やポンプ場整備により、内水被害は少なくなっている傾向にあるが、ゲリラ豪雨等にはまだ弱いところがあると思われる。

事務局：各委員に配付している資料の中に「富士見市まちづくり基本計画」があり、その中に、基礎資料が掲載されているので、参考にしてほしい。

委 員：空き家対策について、空き家のランク付けが、A～Dとあるとしているが、データがあれば教えてほしい。

事務局：（空家等対策計画のデータを解説）

委員長：農業について、問題や課題があれば教えてほしい。

委 員：農協の女性部に所属しているが、高齢化が進み、行事が進められなくなっている。

委員長：担い手を今後継承するのが難しくなっているのは共通の悩みだと思われる。

委員長：教育や文化、子どもの活動面で問題や課題があれば教えてほしい。

委 員：子どもを育てるのなら富士見市でと、みんな戻ってくるのだが、子ども会や町会の行事等には参加してくれるのだが、運営には関与しない人が多い。このため、分野に関係なくどんどん参加したくなるようなまちにしたい。

委員長：インフラ整備だけでなく、ソフト面での満足度を充実させていくことが重要だと感じる。

委員長：環境面での問題や課題があれば教えてほしい。

委 員：開発を行うと環境は変わるものであり、かつ、一つの地域だけに限らない内容でものすごく大きいスパンで考えるものであるので、まとめるのはなかなか難しいと考える。

会 議 事 項

委員長：環境面で期待したいのは、市民が地域に愛着を感じることで市民満足度にもつながるので、富士見市の良い自然環境、良い場所の環境を大切にされていくことも課題だと感じる。

委員：観光入り込み客について、県内で47位とのことだが、例えば1位の越谷市はイオンレイクタウンの集客数を計上していると感じたのだが、富士見市の数字にはらぼーとは入っているのか。

また、総合計画のワークショップのキーワードに「高額納税者」というキーワードが入っているがどういう意図で入ってきたのかを教えてください。

事務局：ららぼーについては集客数が公表されていないため、観光入り込み客に反映していない。

高額納税者については、ワークショップの議論の中で高額納税者が集まると財政が豊かになるのではないかと、といった議論で使われた言葉である。

委員長：総合計画のワークショップのキーワードに「共生」という言葉がある。おそらく、人間と自然ではなくて、多文化共生や新しく来られた方・昔から住んでいる方との間など、いろいろな方々との共生なのかと感じた。

委員長：鉄道沿線地域の商業について、現状を伺いたい。

委員：鶴瀬東で商業を営んでいるが、シャッター商店街になっている。特にアパレル関係などは、ららぼーが開業してから閉店した店舗は何店も駅前にある。商工会などとも一緒に、外から人を呼べるようなショップの誘致、集積を考えている。

また、鶴瀬東については、高齢化が進み独居老人も増えている。そういう意味からも外から呼べる商店街、商店をつくっていきたいと考えている。

8. その他

事務局から、次回以降の委員会開催日程（予定）を説明。

第2回：11月8日（金）、第3回：1月24日（金）、第4回：令和2年3月18日（水）

開始時間はいずれも午前10:00を予定。

以上

